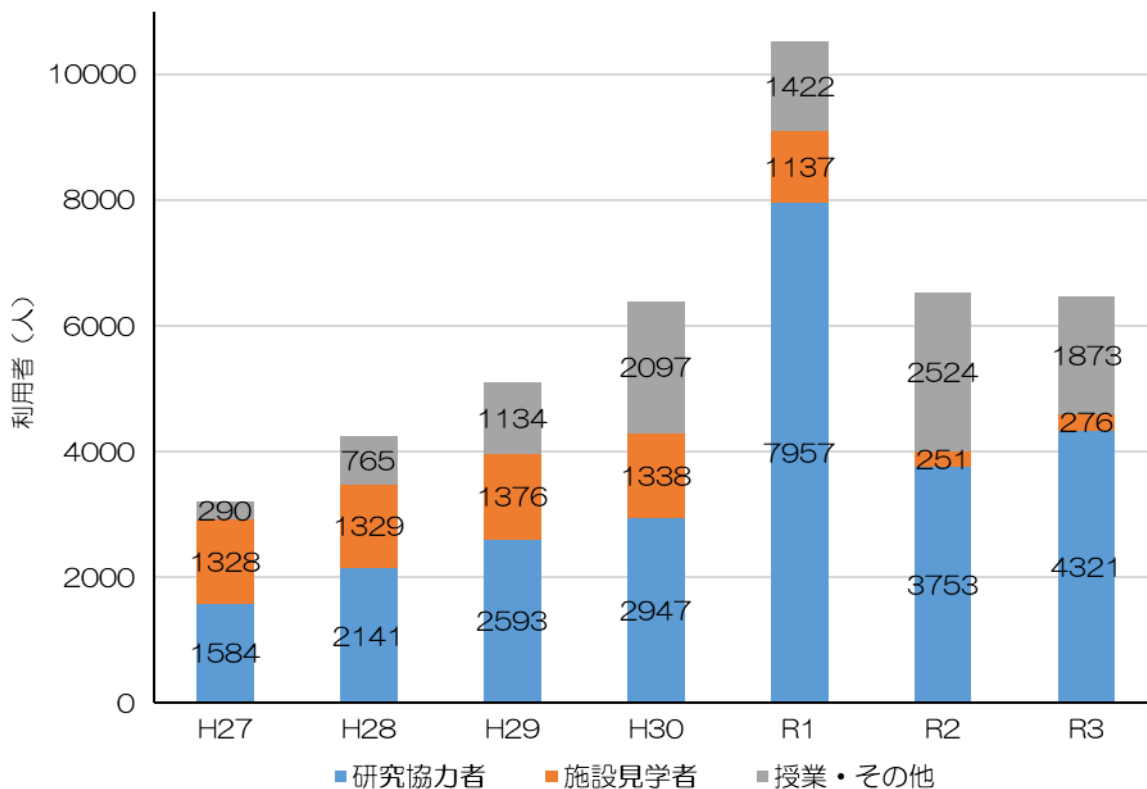


I. 令和3年度の実績

1. 利用者数

利用者数の推移

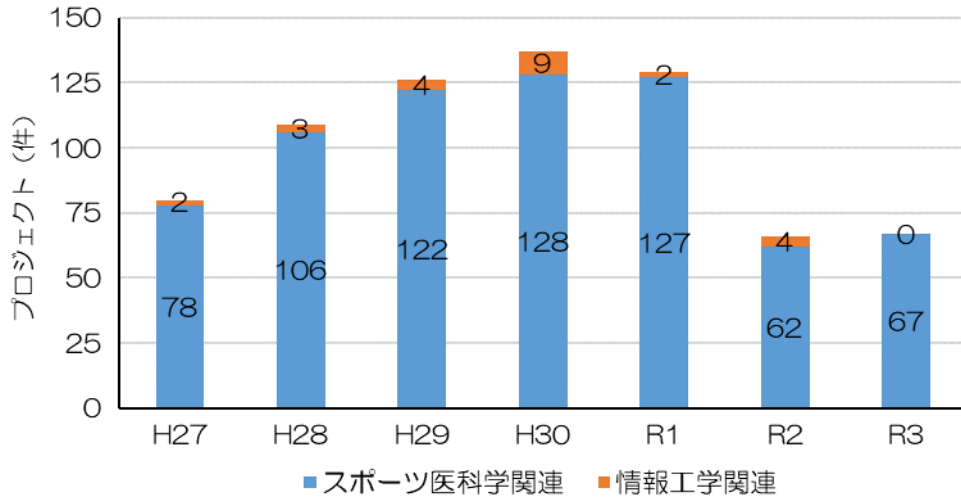


利用者の内訳 (人)				
	研究協力者	施設見学者	授業・その他	合計
H27	1584	1328	290	3202
H28	2141	1329	765	4235
H29	2593	1376	1134	5103
H30	2947	1338	2097	6382
R1	7957	1137	1422	10516
R2	3753	251	2524	6528
R3	4321	276	1873	6470

スポーツパフォーマンス研究センターの利用者数を、利用目的ごとに区分して示しました。令和3年度も、新型コロナウイルスの影響から、令和元年度より研究に関わる研究協力者数は減りましたが、令和2年度より若干増加しました。

2. 研究プロジェクト数

研究プロジェクト数の推移

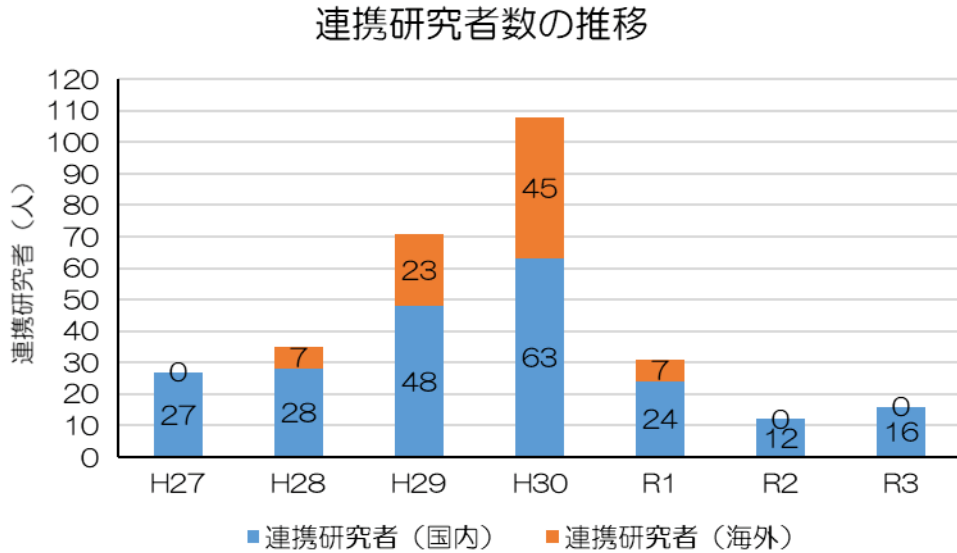


研究プロジェクトの内訳 (件)			
	スポーツ医科学関連	情報工学関連	合計
H27	78	2	80
H28	106	3	109
H29	122	4	126
H30	128	9	137
R1	127	2	129
R2	62	4	66
R3	67	0	67

研究プロジェクトは、中期計画で示されている、スポーツ医科学関連と情報工学関連に区分して示しました。令和3年度の研究プロジェクト数は67件であり、令和元年度から約半数に減少しました。

3. 連携研究者数

1) 国内と海外の連携研究者数

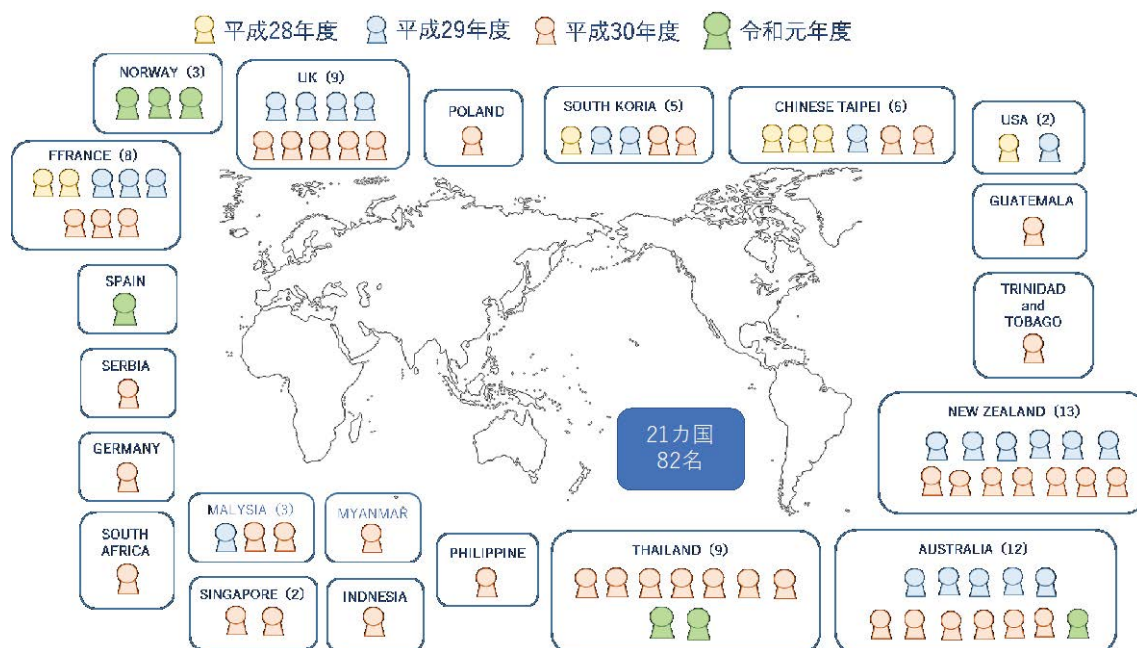


令和3年度は、令和2年度に対して国内の連携研究者が若干増加しました。

陸上競技に関して、東洋大学やジャパンアスリートトレーニングセンター大隅、サッカーに関しては中京大学、テニスではびわこ成蹊スポーツ大学との研究が行われました。

バレーボールでは、(株)STEAM Lab と連携し、男子バレーボール東京五輪日本代表選手の動作分析が行われました。

2) 海外との連携先 分布図



平成28年度から令和元年度までの海外の連携協力者は21カ国82名でした。新型コロナウイルスの影響から、令和2年度に続き令和3年度も海外の連携研究者は0名でした。

4. 利用申請一覧（研究プロジェクト・連携事業・イベント・授業など）

<スポーツ医学領域の研究プロジェクト・連携事業>

	課題名	使用場所	使用人数	使用責任者
1	ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅との共同研究	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	59	金高宏文
2	陸上競技におけるトレーニング手段の選択や動作修正のコーチング学研究	人工芝グラウンド・陸上走路	47	金高宏文
3	スプリント走パフォーマンスのモニタリングに係る実験	人工芝グラウンド・陸上走路	45	永原隆
4	トラッキングシステムを用いた野球選手測定	人工芝グラウンド	1454	鈴木智晴
5	野球選手の体力測定	人工芝グラウンド・陸上走路	111	鈴木智晴
6	① テニスにおけるコーチングに関する研究 ② テニスにおける競技力向上過程に関する研究	テニスコート	184	村上俊祐
7	サッカー現場における日々の負荷と心拍変動の関係（設備のみ：Global Positioning System一式）		1	堀川勝行
8	ベースボールフェスタ	人工芝グラウンド・陸上走路	93	鈴木智晴
9	学童野球教室	人工芝グラウンド・陸上走路	128	鈴木智晴
10	少年野球教室	人工芝グラウンド・陸上走路	160	鈴木智晴
11	生涯スポーツ実践センターと鹿屋市による健康支援事業	人工芝グラウンド・セミナー室	121	中垣内真樹
12	テニスラケットとボールのインパクト特性に関する研究	人工芝グラウンド・陸上走路	11	村田宗紀
13	やり投げ動作の3次元動作分析	人工芝グラウンド・陸上走路	13	前田 明
14	「投球動作の3次元動作分析」卒業研究実験	人工芝グラウンド	16	前田 明
15	「ハイプル動作中の床反力の分析」予備実験	陸上走路	8	前田 明
16	「大学野球選手のアジリティテスト」予備実験	陸上走路	6	前田 明
17	「ジャンプ動作、ランニング動作の3次元動作分析」予備実験	陸上走路	11	前田 明
18	打撃動作の3次元動作分析	人工芝グラウンド	105	前田 明
19	サッカー選手の持久力テストの考察	人工芝グラウンド	87	青木竜
20	大学女子バレーボール選手におけるスパイク及びサーブの動作分析	人工芝グラウンド	35	沼田薫樹
21	野球打撃のパフォーマンステスト	人工芝グラウンド	13	前田 明
22	バレーボール選手における跳躍高の計測		3	沼田薫樹
23	Sled Study	人工芝グラウンド・陸上走路	115	Gleadhill Sam
24	アンダースローの投球パフォーマンステスト	人工芝グラウンド	14	前田 明
25	高負荷高速度での力発揮に及ぼすスタティックストレッチの影響	陸上走路	27	前田 明
26	大学女子バレーボール選手におけるサーブの動作分析	人工芝グラウンド	11	沼田薫樹
27	大学野球投手の動作分析	人工芝グラウンド	13	鈴木智晴
28	野球選手のスプリント走	人工芝グラウンド・陸上走路	193	鈴木智晴
29	野球打撃時のトップ位置と打撃パフォーマンスの関係	人工芝グラウンド	6	前田 明
30	鉛直ジャンプパフォーマンスとスプリント走における時空間変数・地面反力の関係	人工芝グラウンド・陸上走路	12	永原隆
31	大学野球選手の野球打撃の動作分析	人工芝グラウンド	101	鈴木智晴
32	Heavy resisted sprint training: sled pushing and pulling	陸上走路	60	Gleadhill Sam
33	野球打撃時の足底圧と打撃パフォーマンスの関係	人工芝グラウンド	12	前田 明
34	スポーツ合宿まちづくり推進事業（男子バレーボール選手の動作分析およびバレーボール教室）	人工芝グラウンド・陸上走路	96	沼田薫樹
35	肋間筋ストレッチによる体幹回旋角度の向上が投球速度に及ぼす影響	人工芝グラウンド	30	前田 明
36	スキップトレーニングとスプリント走に関する研究	人工芝グラウンド	42	前田 明
37	サッカーのペナルティキックにおけるキック動作解析（卒業研究）	人工芝グラウンド	9	和田智仁
38	アジリティパフォーマンステスト	陸上走路	82	前田明
39	サッカーのボールポジションに関する研究	人工芝グラウンド・セミナー室	68	高井洋平
40	スナッチボールを用いたトレーニングがスローイングに及ぼす影響	人工芝グラウンド	48	前田明
41	陸上競技選手（ハードル）の動作分析	人工芝グラウンド・陸上走路	15	沼田薫樹
42	大学女子バレーボール選手におけるスパイクの動作分析	人工芝グラウンド	21	沼田薫樹
43	サッカー選手の持久力の評価法に関する研究	人工芝グラウンド	52	高井洋平
44	女子ジュニアアスリートの運動部活動における測定分析サポート（弓道）	人工芝グラウンド・セミナー室	30	鈴木智晴
45	中高齢者の健康づくりを目的とした運動指導動画の作成	人工芝グラウンド	3	藤田英二

46	プレッシャー下でのテニス選手のラリー行動の記録	エントランス	16	中本浩輝
47	野球の打撃における視機能との関係	人工芝グラウンド	35	前田明
48	鴻江理論実証実験	陸上走路	19	鈴木智晴
49	野球の打撃パフォーマンス測定	人工芝グラウンド	26	前田明
50	ハディング動作に関する研究	セミナー室	12	青木竜
51	宮城県パフォーマンスアップ事業（宮城県高校野球連盟）	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	55	前田明
52	予備実験：テニスにおいて指導が身体運動に与える影響	人工芝グラウンド	12	村田宗紀
53	スプリンターのカ-速度関係に関する研究	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	70	高井洋平
54	女子ジュニアアスリートの運動部活動における測定分析サポート（ソフトボール）	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	43	鈴木智晴
55	慣性センサを用いたスプリント走の分析		1	和田智仁
56	スポーツ合宿まちづくり推進事業（プロ野球選手の測定分析サポート（投球動作ならびに球質の分析））	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	50	鈴木智晴
57	女子ジュニアアスリートの運動部活動における測定の分析サポート（ソフトテニス）	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	40	大澤啓亮
58	テニスのサービス動作技能の測定	人工芝グラウンド・陸上走路	4	大澤啓亮
59	女子ジュニアアスリートの運動部活動における測定分析サポート（バドミントン）	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	39	沼田薫樹
60	サッカーボールのトラッキングにおける分析		1	高井洋平
61	スポーツ合宿まちづくり推進事業（独立リーグ野球選手の測定分析サポート（投球動作ならびに打撃動作の分析））	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	21	鈴木智晴
62	剣道の面打ちにおける打突動作に関する検討	人工芝グラウンド	8	下川美佳
63	アスリートネイルの予備実験	人工芝グラウンド	15	鈴木智晴
64	ハレーボール選手における動作分析	人工芝グラウンド・陸上走路	31	沼田薫樹
65	剣道の動作に関する検証実験	人工芝グラウンド	6	下川美佳
66	フレーチャを用いた投球動作改善実験	人工芝グラウンド	12	藤井雅文
67	スポーツパフォーマンス研究センターの活用による体力測定等業務委託（国体ジュニアアスリート）	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	34	前田明

<イベント・授業など>

	使用目的	使用場所	使用人数	使用責任者
1	競技力向上セミナー	人工芝グラウンド	101	藤田英二
2	大学説明会（オンライン）	人工芝グラウンド	6	教務課
3	50mフォースプレートキャリブレーション	陸上走路	18	前田明
4	マーカレスモーションキャプチャのデモンストレーション	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	11	沼田薫樹
5	鹿屋市主催事業である「スポーツフェスタ in ののや」の開催	人工芝グラウンド・セミナー室	69	研究・社会連携課
6	機材使用説明会	人工芝グラウンド・陸上走路	20	村田宗紀
7	企業との共同研究のキックオフミーティング	人工芝グラウンド・セミナー室	5	高井洋平
8	授業	人工芝グラウンド・陸上走路・セミナー室	1643	教員

5. 学会・研究会・SPERC の開催

1) 日本コーチング学会第 33 回学会大会

令和 4 年 3 月 5～6 日に本学共催の日本コーチング学会第 33 回学会大会がオンラインで開催されました。ワークショップとしてスポーツパフォーマンス研究センターの紹介を実況中継で行いました。



2) SPERC の開催とその協力

スポーツパフォーマンス研究の推進に協力するため、スポーツパフォーマンス研究カンファレンス (Sports Performance Research Conference ; SPERC) として、毎週、研究会を開催しています。スポーツパフォーマンス研究センターは、SPERC の開催案内や研究会当日の映像管理などを行っています。

SPERC での議論をもとに、スポーツパフォーマンス研究に関する論文が多く作成されるようになりました。

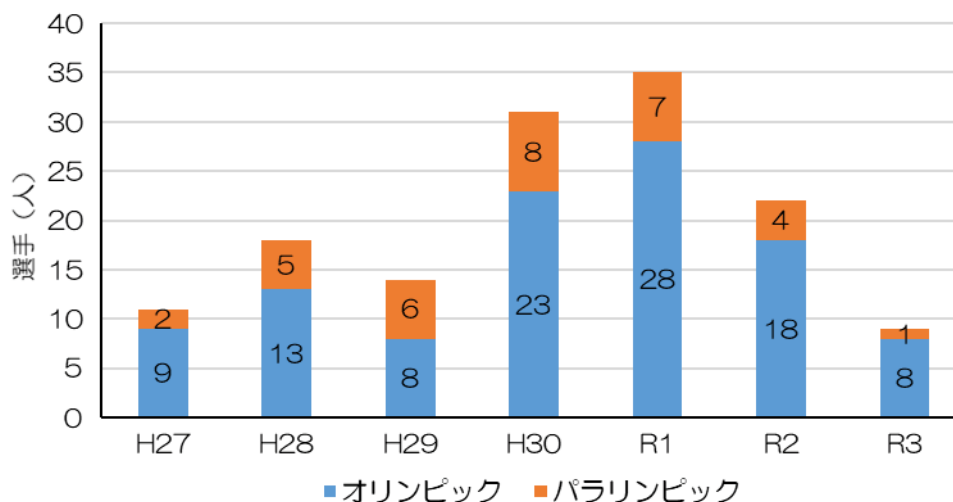
以降に令和 3 年度の SPERC の開催状況を示します。

<SPERCの開催状況>

		開催日	発表タイトル	発表者
1	第238回	2021/4/15	本学の特徴を生かした現場研究の可能性とその実際	山本 正嘉
2	第239回	2021/4/22	剣道におけるコーチング	下川 美佳
3	第240回	2021/5/6	現象学を活用した現場研究の進め方	金高 宏文
4	第241回	2021/5/13	スポーツ科学研究におけるMATLABの活用	和田 智仁
5	第242回	2021/5/20	不安に対する認知の仕方がパフォーマンス発揮に及ぼす影響	阿比 留萌
6	第243回	2021/5/27	バスケットボール競技におけるアナリスト評価のためのルーブリック作成-大学女子チームにおける実践事例-	横山 茜理
7	第244回	2021/6/3	陸上競技・跳躍選手におけるアキレス腱周囲の痛みへの対処法の検討：1年間に渡って痛みが治まらない事例	古川 由季
8	第245回	2021/6/10	アスリートの鉄欠乏の現状－研究と社会実装の循環を目指した取り組み例－	長島 未央子
9	第246回	2021/6/17	第7回日本スポーツパフォーマンス学会大会	
10	第247回	2021/6/24	1.長期的柔道実践者の健康状態 2.柔道療育について	小崎 亮輔
11	第248回	2021/7/1	実技指導における運動観察力（診断力）を高めるための教材を考える	金高 宏文
12	第249回	2021/7/8	男子体操競技のオリンピックを目指したコーチング	村田 憲亮
13	第250回	2021/7/15	セーリング競技におけるハイクアウト継続時間を向上させるための取り組み	笹子 悠歩 榮樂 洋光
14	第251回	2021/7/29	トラッキングシステムを用いたコース別打撃評価システムの応用	佐藤 伸之
15	第252回	2021/8/5	実践者や指導者の「実践知の語り」の研究を考える：為末大氏のYouTube映像から	金高 宏文
16	第253回	2021/10/7	スポーツパフォーマンス向上のための適切な技術課題の設定について考える：大学入学後に低迷し、再起した三段跳選手の事例より	金高 宏文
17	第254回	2021/10/14	一つの事例研究をきっかけとした研究の発展：剣道における踵痛の改善に関する研究について	竹中 健太郎 下川 美佳
18	第255回	2021/10/28	国際競技力の分析と動作技能習得のための評価基準作成についての研究	大澤 啓亮
19	第256回	2021/11/4	大学サッカー選手の競技力向上に関する研究-守備戦術に着目して-	西園 聡史
20	第257回	2021/11/11	事例研究の書き方・まとめ方：看護研究で迷わないための超入門講座から	金高 宏文
21	第258回	2021/11/25	コーチングの失敗事例から論文作成を考える～競技成績低迷と敗戦の原因を題材に～	竹中 健太郎
22	第259回	2021/12/9	「観察力を磨く」をテーマとした授業報告と、コーチテペロッパー講習会の報告	成田 健造
23	第260回	2021/12/16	自転車競技における競技力向上のためのアプローチ：コントロールテストを活用した指導事例報告	山口 大貴
24	第261回	2021/12/23	TASSプロジェクト：バレーボールの競技力向上のため、慣性センサを用いた事例報告	沼田 薫樹
25	第262回	2022/1/13	ソフトテニス指導者の着眼点について－熟練の指導者は選手のどこを見て課題を設定しているか－	松江 拓
26	第263回	2022/1/20	自転車競技トラック中距離ナショナルチームにおけるコンディションのモニタリングシステムの構築とそれを活用したトレーニング効果の検証 - ペダリングパワーのモニタリングとパフォーマンスの関係に関する事例-	橋本 直
27	第264回	2022/1/27	あらためて球技を対象とした実践研究のあり方を考える	高橋 仁大
28	第265回	2022/2/3	体育系大学新入生におけるスポーツ傷害予防のため動作評価に関する研究	森 実由樹

6. オリンピック・パラリンピックレベルのアスリートサポート数

オリ・パラレベルのアスリートサポート数の推移



オリ・パラレベルのアスリートサポート数 (人)			
	オリンピック	パラリンピック	全体
H27	9	2	11
H28	13	5	18
H29	8	6	14
H30	23	8	31
R1	28	7	35
R2	18	4	22
R3	8	1	9

本学の中期目標・中期計画において、令和2年度までにオリンピック・パラリンピックレベルのアスリート14人のサポートを目標としていました。令和3年度はオリンピック・パラリンピアン9選手に対してサポートを行いました。測定は東京五輪後に行われ、次のパリ五輪に向けた選手の志を感じました。